

「12夏 スキンケアニーズ総合調査」結果の速報

— 高老化ニーズは高いが、保湿・美白化粧品が主流。

50代の肌悩みピーク、効果を求めてスキンケア。—

株式会社日本能率協会総合研究所（代表取締役社長：加藤 文昭 本社：東京都港区）は、15～69歳の女性を対象に、「12夏 スキンケアニーズ総合調査」を実施いたしました。本調査は、2003年冬/夏・2006年冬/夏・2009年冬/夏・2012年冬に次いで8回目となる継続調査です。女性の肌ニーズ・基礎化粧品の使用実態を総合的に捉えるため、①肌ニーズの実態、②夏の肌ニーズとスキンケア、③スキンケア化粧品の選択、④スキンケア化粧品の使用・購買実態、⑤ライフスタイルとスキンケア行動について、調査を企画・実施いたしました。その結果、下記のような実態が明らかになりました。

(<http://www.jmar.biz/hot/women12.html>)

◆夏の肌悩みは、しみ・ほうれい線・毛穴の順。

50代でしみ、60代でほうれい線、40代で毛穴の悩み急増。

1位「しみ・そばかす」52%、2位「ほうれい線」45%、3位「毛穴が目立つ」39%となり、以下4位「発汗」・5位「くすみ」・6位「肌のたるみ」・7位「毛穴の黒ずみ」が3割台で続く。「しみ・そばかす」は30代で約6割、50代が65%とピーク。「ほうれい線」は50代で6割以上、60代では7割。

◆「肌の老化」を非常に気にする人は50代がピーク、

「保湿」は20～50代、「美白」は20代。

「美白」は「非常に気にしている」が22%、「やや」を合わせて74%が気にしている人。「保湿」は「非常に」30%、「やや」を合わせ83%。「肌の老化」は「非常に」36%、「やや」を合わせ84%。

◆化粧品への期待効果は、保湿・美白・抗老化の順。

夏より冬に高い、保湿・アンチエイジングへの期待。

水分補給用へは「保湿効果・乾燥肌対策」76%、「美白・ホワイティング・しみ対策」30%、以下「ハリ・たるみ対策」「くすみ対策」「アンチエイジ・加齢対策」「肌の透明感を増す」の肌の老化関連。

◆朝は「化粧水」「乳液」「洗顔」の3ステップ、

夜は「クレンジング」「美容液」を加え4～5ステップ。

使用アイテム数は朝が2.94ステップ、夜が4.33ステップ。朝のお手入れは、「化粧水」80%、「乳液」53%、「洗顔フォーム」50%が半数を超える。夜は、「化粧水」79%、「洗顔フォーム」63%、「乳液」52%に「クレンジング剤（オイルタイプ）」等を加えて4ステップ。

【調査概要】

- ・調査対象：首都圏（東京・千葉・埼玉・神奈川）および近畿圏（大阪・兵庫）の15～69歳の女性
- ・調査方法：女性ネットワーク組織「リビング・パートナー」への郵送調査（年代・属性を人口構成に割り当て抽出）
- ・有効回収数：1,063人（発送数1,161人・有効回収率91.6%）
- ・調査実施日：2012年7月17日（火）～7月28日（土）

《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所 生活者HOTアンケート事務局 担当：土井
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル2階
TEL:03-6202-1287 FAX:03-6202-1294 E-mail:info_mlmc@jmar.co.jp

◆夏の肌悩みは、しみ・ほうれい線・毛穴の順。

50代でしみ、60代でほうれい線、40代で毛穴の悩み急増。

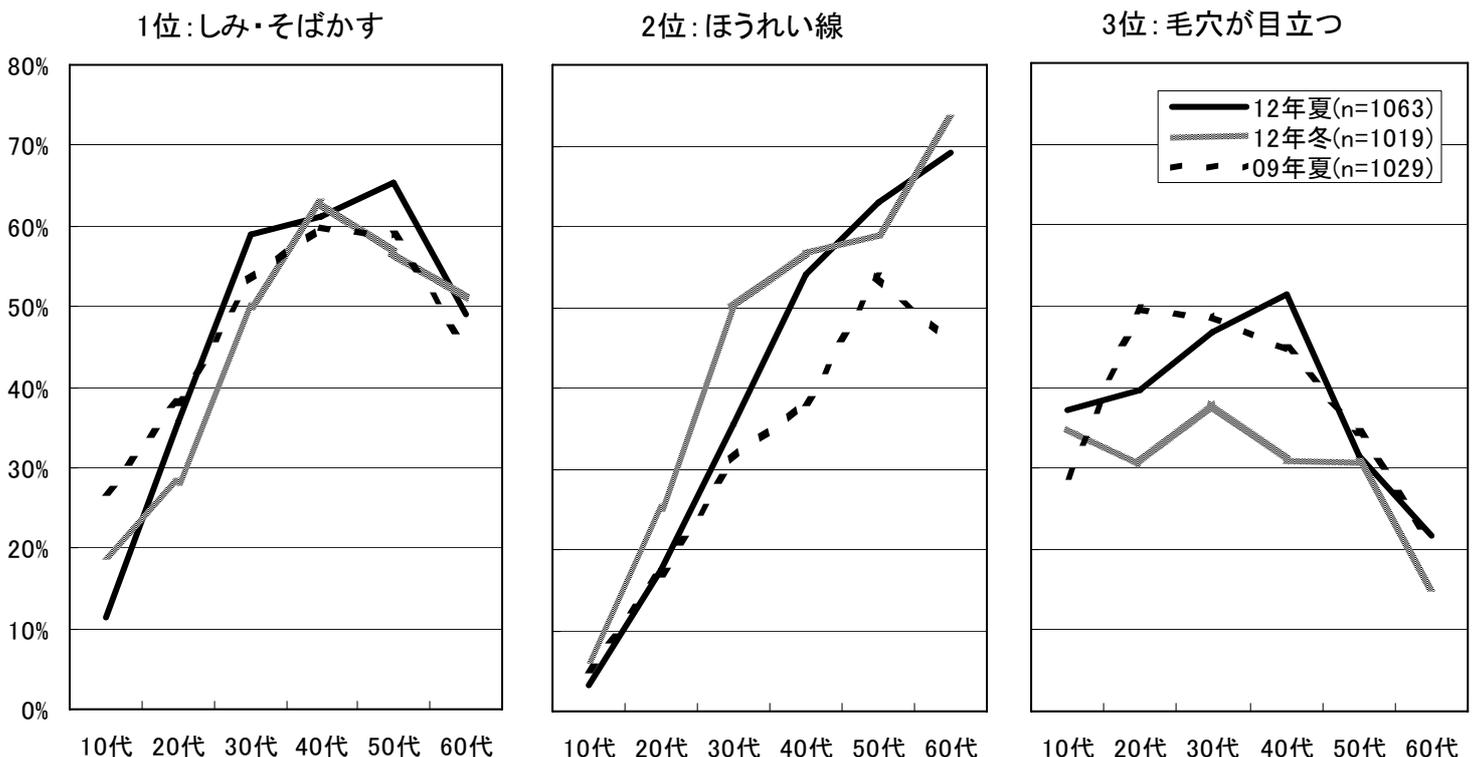
夏の肌で気になる悩みについて39項目の選択肢を挙げて聞いたところ、全体では1位「しみ・そばかす」52%、2位「ほうれい線」45%、3位「毛穴が目立つ」39%となり、以下4位「発汗」・5位「くすみ」・6位「肌のたるみ」・7位「毛穴の黒ずみ」が3割台で続いています。

「しみ・そばかす」は、過去8回のうち7回の調査で1位となり、半数以上の女性が気になる肌悩みでした。前回12年冬は「ほうれい線」に次いで2位となりましたが、12夏では1位に振り返りました。年代別に比較すると、30代で約6割が気にするようになり、50代が65%とピークです。12年冬の調査と比較すると、気にする人のピークが40代から50代にシフトしています。また、09年夏と比較すると、50代で5ポイント以上増加しています。

「ほうれい線」は、09年夏から10ポイント、06年夏からは30ポイント弱気になる人が増加していますが、12年冬と比較すると5ポイント減少と、トーンダウンしています。年代別に見ると、40代で5割を超え、50代で6割以上、60代では7割と、加齢とともに気になる人が多くなります。また、09年夏と比較すると、ピークが50代から60代にシフトし、60代で20ポイント以上増加しました。

「毛穴が目立つ」は、過去8回の調査において、冬より夏に気になる人が多く、夏では「しみ・そばかす」に次ぐ2位の悩みででしたが、今回「ほうれい線」に次ぐ3位となりました。年代別にみると、10代～40代が多く、40代で5割を超えてピークです。他に10代・20代では「毛穴の黒ずみ」が約5割、30代では「毛穴の広がり」が約4割と、40代以下では“毛穴”の悩みが尽きない様子です。40代では、12年冬から気になる人が40ポイント増加し、09年夏と比較すると、ピークが20代から40代にシフトするなど、夏でのニーズの高まりが目立っています。

図表1 夏の肌悩み (MA)



◆ 「肌の老化」を非常に気にする人は50代がピーク、
「保湿」は20～50代、「美白」は20代。

「美白」「保湿」「肌の老化」について、気にしているかどうか聞きました。

「美白」については、「非常に気にしている」が22%、「やや気にしている」が52%と、合わせて74%が気にしている人でした。「非常に気にしている」を年代別にみると、20代がピーク、09年夏と比較すると、60代で増加が目立っています。

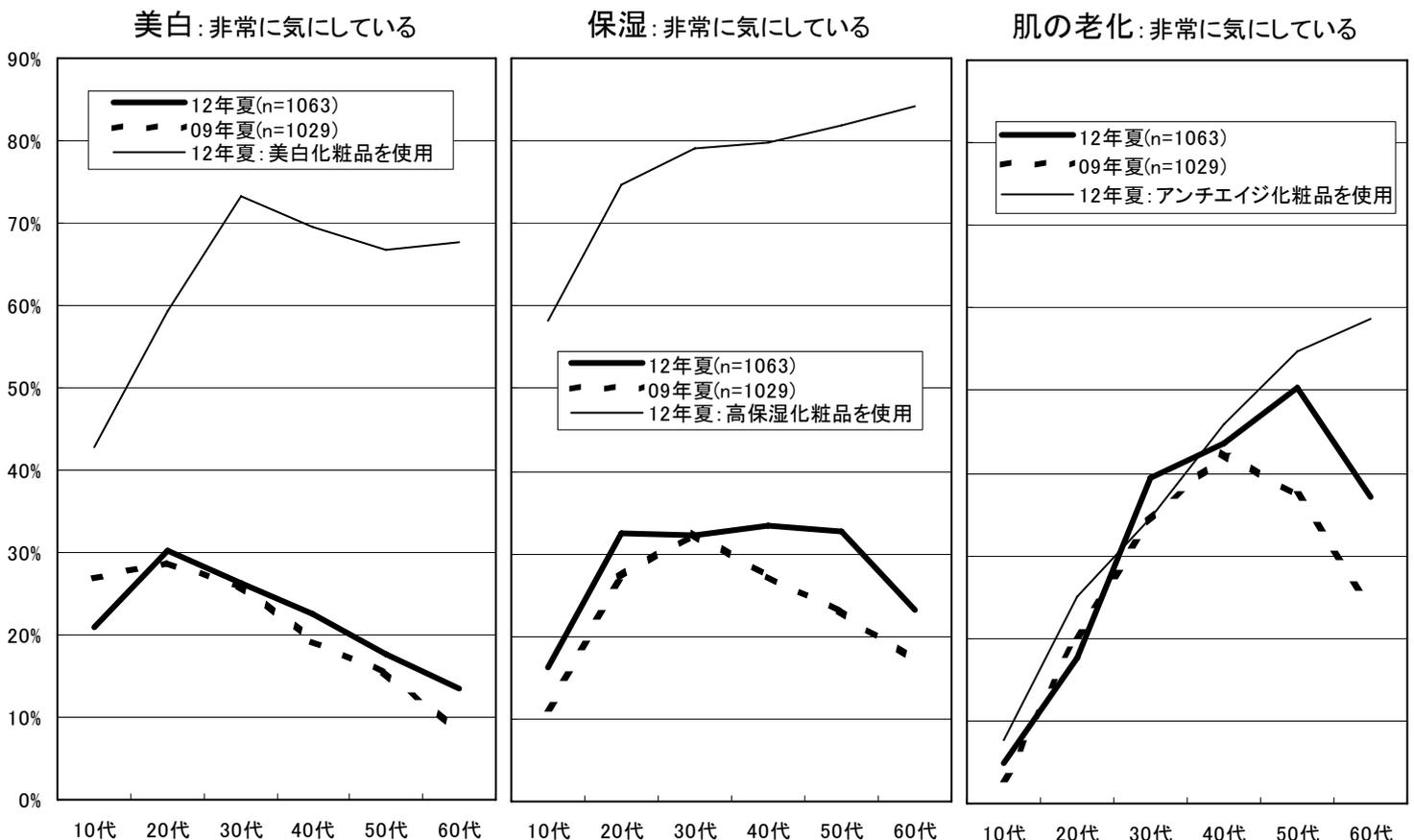
「保湿」については、「非常に気にしている」が30%、「やや」を合わせて83%が気にしている人でした。「非常に気にしている」を年代別にみると、20代～50代で3割を超えており、09年夏では3割以上が30代のみだったのと比較すると、ニーズの高い年代が拡大していることがわかります。

「肌の老化」については、「非常に気にしている」が36%、「やや」を合わせて84%が気にしている人でした。「非常に気にしている」を年代別にみると、30代～60代で約4割、50代では5割を超えピークです。09年夏と比較すると、「非常に気にしている」は全体でも5ポイント以上増加していますが、50代・60代でともに約13ポイント増加し、ピークが40代から50代にシフトしました。

「肌の老化」「保湿」「美白」の順に強いニーズがあり、それぞれ特に、50代、20代～50代、20代に強いということがいえます。

一方、それぞれのニーズに効果のある化粧品の使用に関しては、美白効果のある化粧品（美白化粧品）を何らかのアイテムで使用している人は64%、保湿効果の高い化粧品（高保湿化粧品）は78%と過半数の人が利用していますが、老化防止効果のある化粧品（アンチエイジング化粧品）を利用している人は39%に留まっています。アンチエイジング化粧品を使う人は非常に気にしている人とほぼ同じ比率ですが、高保湿化粧品・美白化粧品は非常に気にしている人の2～3倍の人が使っており、ニーズの強い人だけでなく幅広い層に使われている様子です。また、ニーズの強い年代よりも上の年代で使用している人が多くなるのが目立ちます。

図表2 “美白” “保湿” “肌の老化” ニーズ (SA)



◆化粧品への期待効果は、保湿・美白・抗老化の順。
夏より冬に高い、保湿・アンチエイジングへの期待。

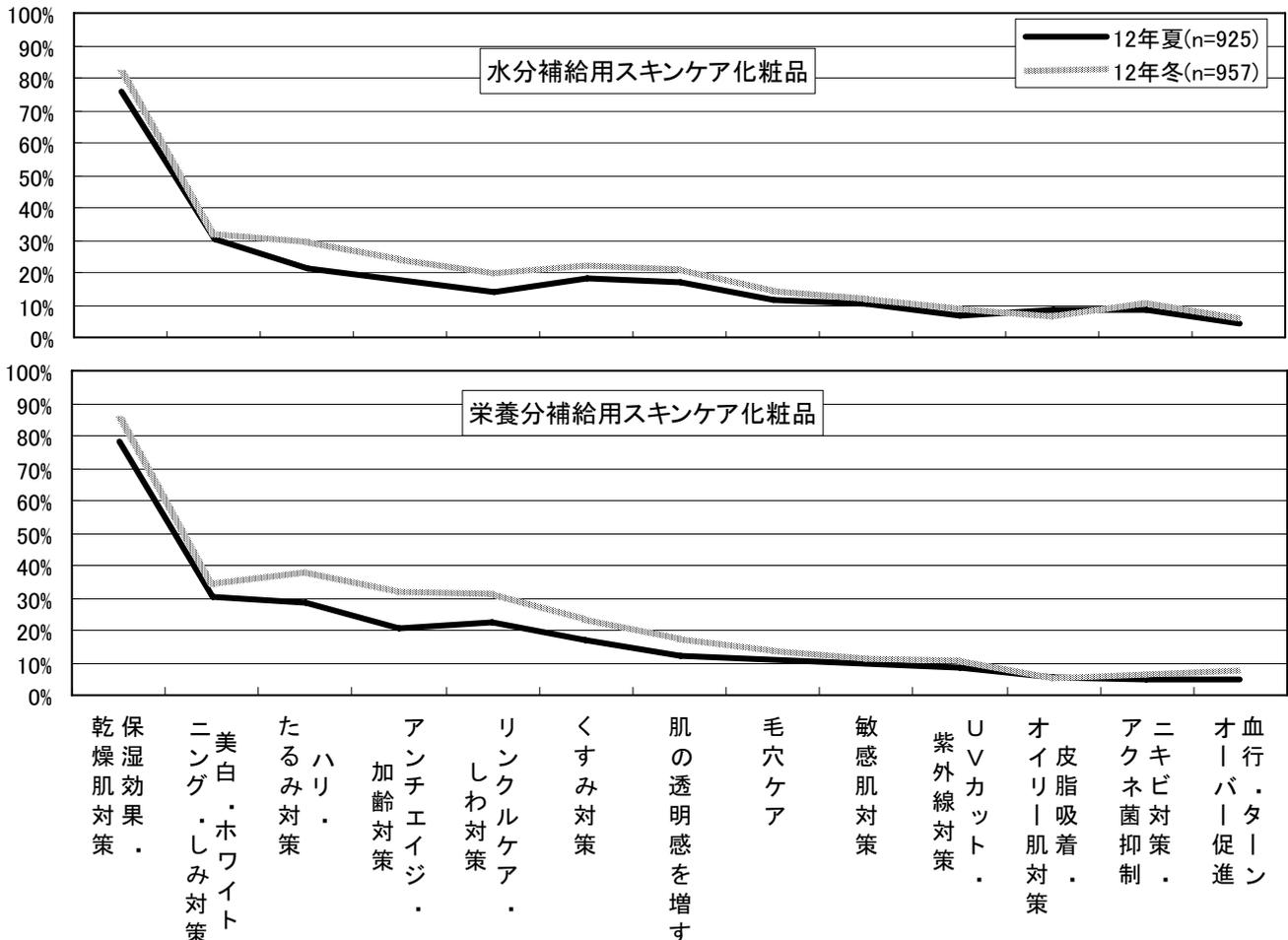
水分補給用スキンケア化粧品（化粧水など）、栄養分補給用スキンケア化粧品（乳液・クリームなど）について、現在使用しているものへの期待する効果を聞いてみました。

水分補給用に期待する効果は「保湿効果・乾燥肌対策」76%、「美白・ホホワイトニング・しみ対策」30%、以下「ハリ・たるみ対策」「くすみ対策」「アンチエイジ・加齢対策」「肌の透明感を増す」といった肌の老化に関連する効果が2割前後で続きます。12年冬と比較すると、ほぼ同様の順番ですが、それぞれ冬より期待値が低いといえます。特に「保湿効果・乾燥肌対策」「ハリ・たるみ対策」「アンチエイジ・加齢対策」は冬のほうが夏より5ポイント以上高く、冬のほうが化粧品への期待効果が高いという結果でした。

栄養分補給用でみると、「保湿効果・乾燥肌対策」78%、「美白・ホホワイトニング・しみ対策」30%、以下「ハリ・たるみ対策」3割弱、「リンクルケア・しわ対策」「アンチエイジ・加齢対策」「くすみ対策」が2割前後と続き、水分補給用と大差ありませんでした。12年冬ではこの上位6項目の顔ぶれは同様でしたが、「ハリ・たるみ対策」「アンチエイジ・加齢対策」への期待が10ポイント以上多いなど、栄養分補給用は、特に冬のほうが夏よりも化粧品への期待が高いという結果でした。

夏よりも冬のほうが、肌の乾燥を実感し、乾燥からハリ・たるみ、しわといった肌の老化の悩みが目立つのかもしれませんが、その分、化粧品に効果を求める期待が高まるのでしょうか。

図表3 スキンケア化粧品に期待する効果 (MA)



◆朝は「化粧水」「乳液」「洗顔」の3ステップ、
夜は「クレンジング」「美容液」を加え4～5ステップ。

基礎化粧品アイテム20項目の選択肢を挙げ、平日朝・平日夜の顔のお手入れで一番多いパターンをあげてもらいました。

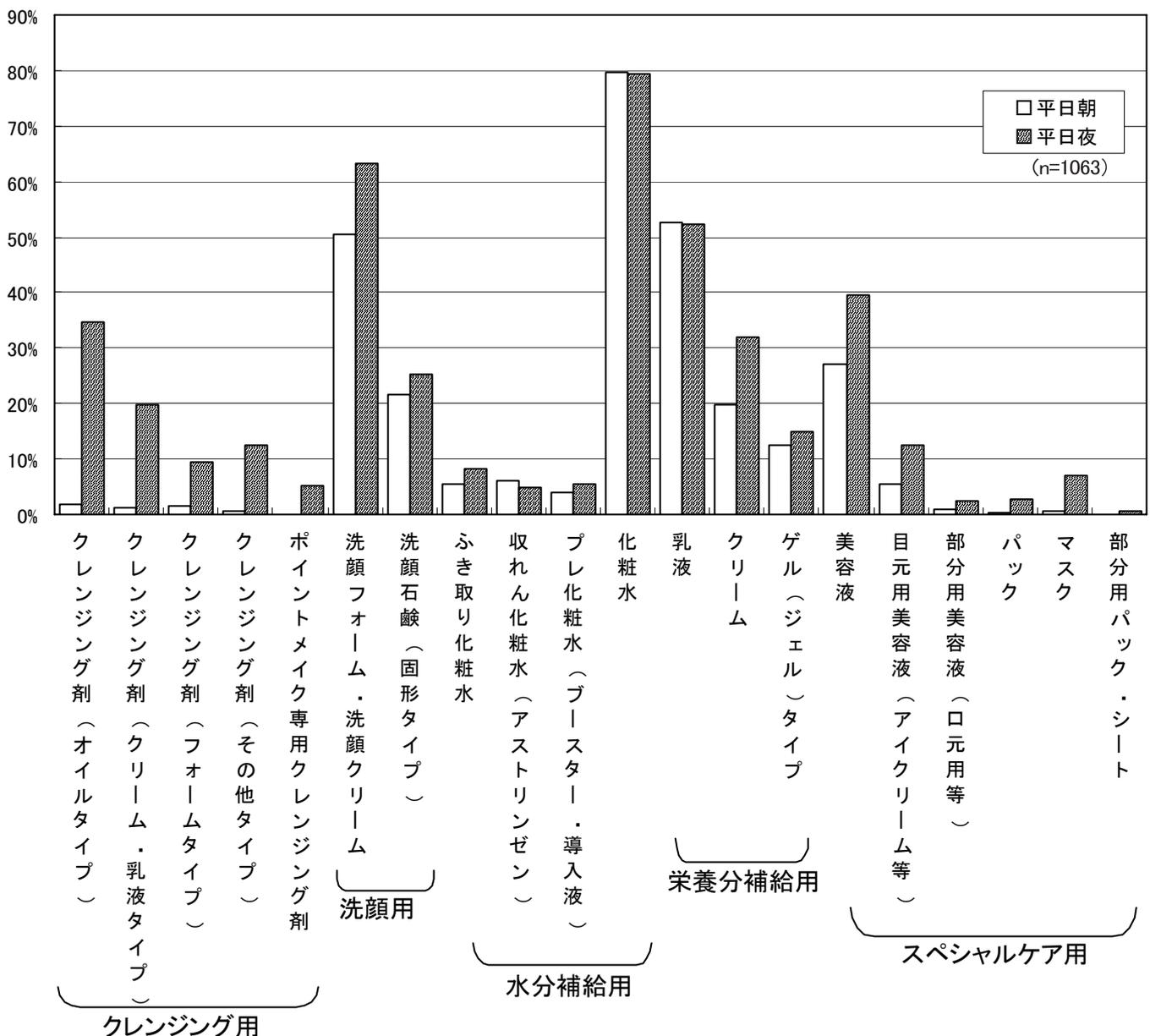
使用アイテム数をみると、平均で朝が2.94ステップ、夜が4.33ステップでした。

朝のお手入れは、「化粧水」80%、「乳液」53%、「洗顔フォーム・洗顔クリーム」50%が半数を超えており、洗顔用・水分補給用・栄養分補給用を使う3ステップが標準的なようです。

夜は、「化粧水」79%、「洗顔フォーム・洗顔クリーム」63%、「乳液」52%が半数を超えており、これに「クレンジング剤（オイルタイプ）」等のクレンジング用を加えて4ステップ、人によっては「美容液」「クリーム」等栄養分補給用かスペシャルケアを加えて5ステップというのが標準的でした。

年代別にステップ数をみると、50代で朝3.20ステップ、夜4.68ステップと最も多く、特に夜は6ステップ以上のお手入れする人が3割を超えていました。

図表4 平日朝・平日夜に使う化粧品の種類で一番多いパターン (MA)



「12夏 スキンケアニーズ総合調査」は、女性の肌や基礎化粧品に対する意識を実態を総合的に探り、どのような人が、なぜ、何を意識し、どの化粧品を使っているのかを明らかにするため、下記項目について調査しました。

- ①肌ニーズの実態：肌タイプ、敏感肌の自覚、夏の肌悩み、理想とする肌…など
- ②夏の肌ニーズとスキンケア：紫外線意識とUVケア化粧品、美白ケアと美白化粧品、乾燥ケアと高保湿化粧品、老化意識とアンチエイジング化粧品…など
- ③スキンケア化粧品の選択：ブランド、スキンケア化粧品に期待する効果、スキンケア化粧品選択時の重視点、スキンケア化粧品に関する情報源、選択時の相談相手、選び方…など
- ④スキンケア化粧品の使用・購買実態：〈クレンジング用〉〈洗顔用〉〈水分補給用〉〈栄養分補給用〉〈スペシャルケア用〉スキンケア化粧品について、使用頻度、購入チャネル、使用ブランド、購入単価、購入理由、使用理由、期待する効果…など
- ⑤ライフスタイルとスキンケア行動：お金と時間のかけ方、よく行っている・肌のためと思うスキンケア行動、使用しているスキンケア用具、朝・夜に使用しているスキンケア化粧品と使用ステップ数…など

また、2003年冬/夏・2006年冬/夏・2009年冬/夏・2012年冬に「スキンケアニーズ総合調査」を実施しており、今回の調査は8回目となる継続調査です。

本調査は肌ニーズ・スキンケア化粧品の基礎データとして必要不可欠な調査です。今回はその中から、「夏の肌悩み」「美白」「保湿」「肌の老化」ニーズ「スキンケア化粧品に期待する効果」「平日朝・平日夜に使う化粧品の種類で一番多いパターン」に焦点を当てて結果の速報をご報告しております。
(<http://www.jmar.biz/hot/women12.html>)

【調査購入のご案内】

弊社自主企画により、複数企業にご購入いただく方式で実施し、以下のアウトプット一式を提供いたします。

・調査購入費用：定価 600,000円（税込630,000円）

MD Bメンバー価格 540,000円（税込567,000円）

・調査のアウトプット

(1) 調査報告書：A4判・98ページ・2012年10月発行

(2) 集計結果表：A4判・2分冊計959ページ・2012年10月発行

(3) 磁気データ(CD-ROM)：クロス集計、ローデータ、他

※本調査の報告書はご参加いただいた企業以外は入手できません。また、データのご利用は社内に限らせていただきます。

《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所 生活者HOTアンケート事務局 担当：土井
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル2階
TEL:03-6202-1287 FAX:03-6202-1294 E-mail:info_mlmc@jmar.co.jp
<http://www.jmar.biz/hot/>

本件引用の際は、お手数ですが、上記あて掲載紙をご送付ください。